

令和3年度 佐那河内小学校・中学校学校評価アンケート(保護者対象)について

1 小学校

本年度も、新型コロナウイルス感染症による教育活動への制限がかかる1年でした。そのような状況の中でも、全教職員で「思考力・表現力を高める授業づくり」「主体的に学習する力を伸ばす手立ての工夫」を目指し、「特色」と「魅力」ある小中一貫教育校として9年間を見通した教育活動に取り組んできました。小中合同研修会の充実や小中相互の授業を参観することで研究を深めてきました。また、1人1台タブレット端末の活用やプログラミング学習への取り組みの成果が今後論理的な思考力の向上に繋がることを期待しています。

アンケート結果は、22項目中18項目で80%以上の肯定的な評価をいただきました。特に「児童は学校へ行くのを楽しみにしている」「安全教育や避難訓練を実施し、児童の安全に積極的に取り組んでいる」の2項目については、95%以上の高い評価をいただきました。今後も、児童が楽しく、安全・安心に過ごすことができる環境づくりに努めるとともに、授業の充実、行事や体験的な活動を通して、豊かな心をもった児童を育ててまいりたいと思います。

その一方で、「児童は進んで読書をしている」は53%、「働き方改革への理解促進」は68%と厳しい評価をいただいています。昨年度の学校評価をもとに、図書館便りを発行したり、様々なイベントを開催したりと、読書活動充実に取り組んでいるところですが、家庭でも進んで読書をする児童が一人でも多くなるように、読書の楽しさを伝えられるよう努力してまいります。また、働き方改革の必要性やその効果について、ホームページ等を活用し広報を進めてまいりたいと思います。また、昨年度は94%の肯定的な評価をいただいた「施設や授業・行事の公開、情報の提供など、開かれた学校づくりのための努力をしている」は85%と、昨年度と比べると肯定的な評価が9ポイント減少しました。来年度は、これまで以上に、教育目標や教育方針、授業や行事のホームページへの掲載等、さまざまな方法で学校での活動の様子をお知らせするなど工夫をしていくことで、地域に根ざした信頼される学校づくりを進めていきたいと思います。

来年度も、小中一貫教育校として9年間を通した系統的なつながりをさらに構築できるよう、全教職員で努めてまいりたいと思います。

2 中学校

これまで「特色」と「魅力」ある小中一貫教育校として「ふるさと学習」と「英語教育」の二本柱で学校教育を進めてきました。さらに今年度から「ICTを活用した教育」を追加し、三本柱とし、9年間を通してすべての児童生徒の可能性を最大限に伸ばすことを目指しています。

- ・「ふるさと学習」では、2月には中学2年生が5年目となる村への提言発表会を開催しました。ゲストティーチャーからの話や生徒たちが調べた中から佐那河内の魅力や問題点を明らかにし、佐那河内に住み続けるために生徒たちが今できることを御出席いただいた村長等、村の関係者に提言しました。
- ・「英語教育」では、工夫されたスタートカリキュラムにより小学校英語から中学校英語へとスムーズに接続できておりSkypeを利用した海外居住者との双方向でのやりとりや文通を行うことにより、英語に対する興味関心を高め、実践的な力の定着を目指しました。英語検定に34名が受験し、2級合格者も出るなど生徒の意欲が向上しています。
- ・「ICTを活用した教育」では、授業における電子黒板、一人一台のタブレットの活用はもちろんのこと、新型コロナウイルス感染症による休校時の対応として、タブレットの持ち帰りを日常化する取り組みを進めました。夏休み前までは、定期的に持ち帰り、夏休みには1週間、冬休みは全休業中、また、1月中旬からは毎日持ち帰るようにしました。夏休みや冬休みには、学校と家庭とを接続し、オンライン学習にも取り組みました。

今回の保護者の皆様へのアンケートは、昨年度の質問に、「学校は、電子黒板やタブレットを活用した授業や家庭学習等に努めている。」を付け加えた24項目となっています。結果としては、24項目中19項目で80%を超える肯定的な意見をいただきました。「生徒は、よくあいさつができる。」「学校は、生徒の学力向上に努めている。」という項目が昨年度よりもより多くの肯定的な意見をいただきました。

特に学力向上に関しては、電子黒板のやタブレットを使用した授業実践がさらにすすめられたことや放課後や休み時間を利用した学習支援が高い評価へつながったと考えられます。さら、今年度、文部科学省が進めるGIGAスクール構想で、全国で活躍されている講師の方3名による教職員研修を実施し、教員の指導力向上にも努めた結果であると考えられます。

一方で、「生徒は、進んで学習している。」の項目については、前年度より10%ほど改善していますが、それでも30%近くの否定的なご意見もあります。自ら進んで取り組むことが、学力向上に直接結び付くと考えられるため、自ら進んで学習を進める意識づけを身に付けさせる必要があります。同じく「生徒は、進んで読書している。」の項目についても、前年度より20%ほども改善していますが、それでも40%以上の否定的なご意見もあります。これまでの図書室では、手書きでの貸し出し返却業務を行っていましたが、今年度後半より図書システムが導入され、貸出返却がスムーズに行えるようになったため、貸出数が増加し、読書週間が身に付いたのだと考えられます。ただ、改善の余

地は残っているため、今後も国語科教員を中心に読書活動を進めていく必要があると考えています。

また、「学校は、生徒一人一人に対し、適切な指導や支援をしている。」の項目について否定的なご意見が20%を超えています。この指導・支援に関しては、授業等の学力向上以外の学校生活等に関する内容だと受け止めています。

今年度、生活に関するアンケートを定期的に行い、長期休業日前に実施している三者面談等で、生徒一人一人のよりよい成長のため、学校と家庭との連携を深めるためのものとして活用してきましたが、アンケートを実施内容や担任との個人面談の再検討が必要であると考えています。

また、「学校は、部活動を適切に運営している。」という項目に関しても、否定的なご意見が20%を超えています。本校においては、生徒数の減少による部員数の減少のため、団体戦に出場することも困難な実情です。本校においても、県下中学校の多くで課題となっている部活動数再編についても検討していく必要があるのかもしれないと考えています。また、今年度も生徒に対する部活動の負担軽減、また新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、部活の休養日設定、練習時間の制限等、条件がある中で、集中して短時間で練習ができるように努めていますので、ご理解いただければと思います。

保護者の皆様のご期待に応えるために、来年度も全教職員で共通理解を図り対応してまいります。

3 学校関係者評価委員会（小中合同）での意見

○働き方改革についての方向性を、教職員でしっかりと共有してほしい。保護者や地域への理解促進のためには、よりわかりやすく情報発信をしていくべきである。理解促進することで、働き方改革を進めやすい土壌を築いてほしい。

○タブレットPCの活用が進められており、教育的効果も感じられる。毎日の持ち帰りについても、有事に備えた対応として評価できる。

○学校での図書館教育の充実が、家庭での読書習慣に繋がるよう、今後も継続して取り組んでほしい。

4 おわりに

この評価結果及び皆様からいただきましたご意見を、次年度の学校運営につなげていきたいと考えています。今後とも、本校の教育活動に対しまして御支援・御鞭撻をお願い申し上げます。